

編集後記

まさに、現在は、情報の氾濫時代と言えるでしょう。イラク攻撃、SARSの流行など、世界中を戦慄するできごとが、起こっています。IT技術の進歩により、我々は、居ながらにして、それらの情報を受け取ることができます。

医薬品情報についても、玉石混交の情報が、絶えまなく流れ、あるものは残り、あるものは消えて行っています。我々は、このような現状で、価値ある情報を見出し、後世に伝えていくべきか否かを瞬時に判断する能力を磨いていかなければなりません。鍛えるべきものは、情報のプロとしての、自分の直感です。情報を入力 (Input)、発表 (Presentation)、討論 (Discussion)、出力 (Output) する速度を高めることで、情報化を乗り切ることができるのではないのでしょうか。

多くの方の努力により、本誌は5巻目を数えました。本号では、巻頭言を Info-view と改めました。情報を見渡すという造語です。また、現在問題となっている、薬学教育問題、医薬品情報データベースの他、行政問題もとりあげました。更に、学会となって初めての学術大会の抄録と合併しましたので、情報量が多くなっているかと思えます。

新年度、しっかりと地に足をつけながらも、時代の動きに機敏に反応した情報をお届けできるかどうかは、会員の皆様の声や投稿論文にかかっております。論文として投稿いただいたものは、基本的に、受理に導くような審査を行うようにしています。タイムリーな企画と、現場に立脚した声を発表する学術雑誌としても、皆様のお役にたてるよう、努力する所存です。アマチュアのできないことを悠々とやり遂げるのがプロであると言われます。IPDO (Input、Presentation、Discussion、Output) 能力を高めるためにも、皆様の投稿を心からお待ちしております。

(編集委員長 中島恵美)